



The Comet

The Newsletter of K. International School Tokyo

Volume 17 | Issue 1 | September 2013

In this issue...

- ▶セカンダリーSRC...p. 2
- ▶新入スタッフの歓迎...p. 3
- ▶創立者奨学金...p. 4
- ▶IBディプロマの結果...p. 5
- ▶エレメンタリースクールニュース...p. 6
- ▶セカンダリースクールニュース...p. 7
- ▶知覚運動プログラム...p. 8
- ▶図書室ニュース...p. 9
- ▶学校コミュニティーの様々な国籍...p. 10
- ▶保険便り...p. 11
- ▶数学の変更点について...p. 13
- ▶グループ4プロジェクト...p. 14

「思うことと信じることは、何であれ、実現する」

—Napoleon Hill

学校長より

夏休みも終わり、いよいよ2013-2014学年度がスタートしました。皆様に置かれましては、どのような夏休みを過ごされましたでしょうか？

私達家族は、ロンドンとマイアミで行われたカウンセラーのトレーニングに参加した娘と息子に同行し、約一か月間ロンドンとアメリカに滞在しました。その間、彼らがトレーニングで得た情報をもとに、毎晩熱く意見交換をするという有意義ではありましたが、仕事から全く離れられない日々を過ごしました。来年はもう少し、リラックスできたらと思っていますが。

さて、8月15、28、29、30日に開かれたParent Welcome Nightには猛暑の中多くの保護者の皆様にご参加頂きましたことを心から感謝申し上げます。その中で、保護者の皆様のご意見を直接お聞かせ頂き、皆様のお子様への教育に対する熱心さに改めて責任の重さを痛感すると共に、現在KISTが目指していることが皆様から強く支持されていることを実感するような意見を沢山頂き、うれしく思っています。

Parent Welcome Nightでお話しさせて頂いたことを、ここに改めて要約させて頂きます。

学校のミッションの実践に向け、今年も様々な取組を行ってまいりたいと思います。

Kインターナショナルスクール東京のミッションは、文化的社会的に多様な背景をもった意欲的な子どもたちに、安全で人をはぐむ環境の中で、質の高い教育を提供し、国際社会に貢献する、人格的に秀でた有能な若者を育成することである。

KISTは学校のミッションを達成するために、大学や実社会で求められる知識やスキルを高いレベルで身に付けたことの証明となる、KISTのゴールであるDPでハイスコアを取ることを具体的な目標として上げています。生徒たちは、その目標に到達するために必要な知識やスキルを、PYPやMYPを通して確実に身に付けていくことが必要になります。

そのために、学習全般を成功に導くために不可欠な道具となる、英語力と算数/数学力を強化する取組を今年も行っています。

次のページに続く



DATES TO REMEMBER

September 2013

- 16 School day
- 16 (G1-G12) Clubs program begins
- 17 (S) Field Day
- 18 (E) Field Day
- 20 Staff development day (No school for students)
- 20 MYP information session for new parents [Changed from Sept. 13]
- 23 School holiday
- 24 (W) Free dress day
- 25 PYP information session for new parents
- 28 (G9-G12) High school drama festival (Hosted at YIS)
- 30-Oct 1 School photographs

October 2013

- 5 World teachers' day
- 8-10 (G3-G9) ISA testing
- 14 School day
- 19 School explanation day (for prospective parents)
- 19 (G10) PSAT tests (*Optional)
- 21 2014-2015 enrollment applications open
- 22 Last day of quarter 1
- 25 KISTival preparation day (K1-G5) No school for students (S) School day
- 26 KISTival
- 27-Nov 3 Autumn break

November 2013

- 4 (W) School resumes for all students
- 5 (W) DEAR literary character dress-up day



KIST is an IB World School

前ページの続き

まず英語力の向上のために、

* エレメンタリースクールではクラスルームライブラリーを充実させ、また、この9月にはライティングのワークショップを行う予定です。

* セカンダリースクールでは英語の授業数を増やし、毎日行うように致しました。また、Grade6から8の生徒でEnglish Aのレベル(母語またはそれに近いレベル)に到達していない生徒に対し、出来る限り早くEnglish Aに移れるよう、追加で週2回の授業を提供しています。

次に数学力の向上のために、

* 英国のKey StageとInternational GCSEを使用し、算数/数学の学力テストを行っています。セカンダリースクールでは、その結果に基づいてGrade 6から習熟度により上級レベル1グループとスタンダードレベル2グループに分けて授業を行っています。さらに、スタンダードレベルの授業に加え、基礎学力を向上させる必要があるGrade 6から10の生徒に対し、追加で週2回の授業を提供しています。

また、Key StageやInternational GCSE学力テストの導入により、進級・進学基準の見直しが行われています。明確な進級・進学基準が示されることで、生徒が態度や学習の目標を持ちやすく、また保護者のサポートも容易になると思います。

そして、学校のミッションを実践するための信条の一つに、「適切な身だしなみと態度の規範の順守が尊敬に満ちた、責任ある、安全な学校環境を促進する。」とあります。今年KISTに新しく迎えた教師の皆さんから、私たちのセカンダリースクール高学年の生徒の学習に対する意欲と態度についてお褒めの言葉を頂きましたが、更にまだ「良い学習態度」が身に付いていない低学年の生徒に対しても、指導を強化し学習環境の向上を図ります。過去の学校の経験からDPで高得点を取得した生徒は、例外なく早い時期から良い学習態度が身に付いていました。

また、学校を訪れる多くのゲストから、当校の生徒は「マナーや身だしなみが良い」とのお褒めの言葉を頂いており、当校の優れた特徴として上げられています。これらの評判を損なわないよう、また尊敬に満ちた、責任ある、安全な学校環境を促進するために、身だしなみに対しても、ルールを遵守するよう更に指導を強化して行きたいと思えます。

最後になりますが、今年度、教育部門のディレクターとしてMr. Jeffrey Jonesを迎えることができましたこともミッション実践に向けての大きな力となることを確信しています。

Mr. Jonesは2005年から2008年までKISTにおいて数学教師とCASコーディネーターとしてを務め、生徒に対する深い愛情を持って優れた指導力を発揮し、多くの生徒を成功に導いて下さいました。この8月からKISTの数学教師となりました私の息子もMr. Jonesの教え子の一人です。その後、玉川学園でMYPコーディネーター、同志社大学付属のインターナショナルスクールで校長として勤務し、強いリーダーシップを発揮してまいりました。私たちは、Mr. Jonesと再び

一緒に働けることを心からうれしく思うと共にミッション実践に向けての活躍を期待します。

Mr. Jonesの他、今年度は、エレメンタリースクールは、教員7名、アシスタント3名、セカンダリースクールは、教員6名を新たにKISTコミュニティメンバーとして迎え、総勢71名で教育部門を担当することになります。生徒にとって実りの多い一年になりますよう、引き続き保護者の皆様のご協力よろしくお願い申し上げます。

学校に対するご質問やご意見、アイデア等ございましたら、いつでも遠慮なく直接私にコンタクトを取って下さい。

Yoshishige Komaki
School Director/Head of School



セカンダリーSRC



今年度セカンダリーSRCに選ばれた生徒の皆さん、おめでとう！

Executive

President

Min (G12B)

Vice President

Kouta (G11B)

Treasurer

Tatsuya (G11A)

Secretary

Prakhar (G11B)

Homeroom Reps

Grade 6

GaOn (G6A) | Shridhar (G6B)

Grade 7

Kevin (G7A) | Natasha (G7B)

Grade 8

Rachel (G8A) | Ellen (G8B)

Grade 9

Moana (G9A) | Hana (G9B)

Grade 10

Angela (G10A) | Aditya (G10B)

Grade 11

Arya (G11A) | Vigi (G11B)

Grade 12

Kent (G12A) | Abhinav (G12B)



2013-2014年度セカンダリーSRCのメンバーと、スーパーバイザーのMs. Babaeva

新入スタッフの歓迎...

KISTスクールコミュニティを代表し、2013-2014年度の新入スタッフに暖かい歓迎メッセージを送りたいと思います。皆様のご活躍を祈り、共に楽しい時間を過ごせることを願っています。



Helen Campbell
PYP Art



Jennifer Campbell
Grade 1B



Cesar Cely
MYP Science /
DP Physics



Tibor Cernak
MYP Humanities /
DP Economics



Scott Grant
Grade 5B



Jeffrey Jones
Director of
Education / MYP
Mathematics



Hiro Komaki
MYP/DP
Mathematics



Seth Kroschel
MYP Mathematics



Joanna Lee
Teacher's Assistant
K2



Sophie Noreen
Teacher's Assistant
Grade 1A



Andrea O'Handley
Grade 4B



John Rose
MYP Science /
DP Chemistry



Oliver Sullivan
Grade 3A



Christopher Tihor
MYP Mathematics



Timothy Vodden
Grade 2A



Atsuko先生と新しいスタッフが一緒に和食クッキングを楽しみました。

役職変更となったスタッフ.....

新しいスタッフを歓迎すると共に、以下の役職変更となったスタッフの紹介です。新しい役職でのみなさんの活躍を願っています。



Clay Bradley
PYP Coordinator



Robert Collins
PYP Music



Anna Holdaway
Administrative
Assistant (Office)



Leslie Hynes
Elementary School
Librarian



Nanami Komaki
Student Welfare
Counselor



Jude Ross
Grade 2B



Andrew Young
MYP Coordinator

創始者奨学金.....

KIST創始者奨学金は、学校のコミュニティーに貢献した生徒を評価し、生徒たちの学習に対する意欲を育み維持させることを目的としています。アワードには、KIST Study Scholarship (就学奨学金)と、KIST University Support Scholarship (大学支援奨学金)の二種類があります。アワードに関する情報につきましては学校のウェブサイトを参照ください。今年度の大学支援奨学金を受賞する生徒が決定しました。以下の卒業生のみならず、おめでとうございます。大学でのみなさんの成功を願っています。



KIST大学支援奨学金



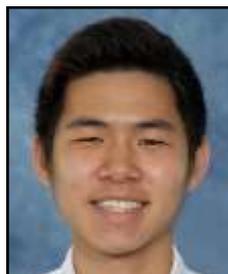
Class of 2013
Monica
Silver Award



Class of 2013
Samkit
Silver Award



Class of 2013
Marie
Silver Award



Class of 2013
Yu Zi
Bronze Award



Class of 2013
Rishab
Bronze Award



DPニュース

IBディプロマの結果 - July 2013

夏休み期間中に“Class of 2013”（2013年度卒業生）のIBディプロマの結果が公表されました。下記表は昨年度卒業生の結果と2007年から2012年の卒業生の結果をまとめたものです。

Year of Graduation	KIST mean points*	Number of Grade 12 full DP students	Number of students awarded the IB Diploma	Mean points of students awarded the IB Diploma*	Highest KIST score*	Worldwide mean points
2013	30.63	35	29	32	42	TBA
2012	29.06	17	14	30	37	29.77
2011	30.5	16	14	32	40	29.61
2010	27.05	18	11	30	38	29.55
2009	31.80	10	9	32	45	29.51
2008	30.88	8	5	35	39	29.57
2007	30.50	2	1	36	36	29.56

*最高得点:45点

表が示すとおり前年度と比べ卒業生の数が倍となり、Class of 2013はKISTにとって重要なグループとなりました。更に、学年全生徒がフルディプロマに挑戦し、全体の83%となる29名の生徒がディプロマを得ることができました。ディプロマを受け取ることのできなかつた6名の生徒も大半が1点足りなかつただけという非常に惜しい結果となりました。IBが公表している世界の平均と比べても、二つのカテゴリーで当校の統計は平均よりも良いものとなっています。IBディプロマを履修している生徒の50%未満の生徒がフルディプロマに挑戦し、そのうちの78%がディプロマ取得に成功しています。(IB, 2012)

もう一つ学校にとって重要な点としてあげられるのはClass of 2013のうち3名の生徒が合計40点以上の成績を収めることができたという点です。**Monica**と**Marie**が42点、**Samkit**が40点という成績を収める事ができました。**Rishab**と**Yu Zi**も39点をとることができたという事もここで言わせていただきたいと思います。全体として、20名の生徒が30点以上のディプロマを取得しました。そして9名の生徒が、二つの言語を第一言語として学ぶ**バイリンガルディプロマ**を取得しました。

IBディプロマの結果についてより詳しくご覧になりたい方は<http://www.ibo.org/diploma/assessment/results/>にて“Statistical Bulletin”（統計）をご確認ください。2013年5月の統計は10月から11月に公表される予定です。

この場をお借りして、生徒の皆さんのDPでの成功をたたえたく思います。12年生を担当した教師の皆さんのご指導にも感謝しています。



Mark Cowe
Secondary School Vice-Principal/IB Diploma Coordinator
mark.cowe@kist.ed.jp

(IB, 2012) “IB DP Statistical Bulletin May 2012 Examination Session”



エレメンタリースクールニュース

2013-2014年度スクールイヤーによこそ！

みなさんが楽しい夏休みをゆっくりと過ごせた事を願っています。エレメンタリースクールのスタッフもみな、学校に戻り新学期を迎える事が出来てとても嬉しいです。

生徒たちが学校に戻ってくる一週間前、スタッフたちは新学期に向けての準備に取り掛かりました。この一週間はPYPコーディネータのClay Bradleyと共に、最善な教育実践法や教授方法、対策の再検討をする為に活用しました。生徒の素行に対する指導方法を一貫させたい思いで、エレメンタリースタッフに「幸せのバケツ」という本を紹介しました。この本は、人々の素晴らしい行いに意識して目を向け、それを褒めることによりみんなの幸せのバケツを満タンにしよう、というメッセージがこめられています。

始めは、幸せのバケツのテクニックを生徒の為だけに教えるように思っていました。しかし、スクールコミュニティという更に幅広い規模でこのテクニックを使うことにより、一人ひとりがお互いの長所を引き出しあい、学校内で前向きな雰囲気を持続することが出来る様になると気がつきました。

「幸せのバケツ」は素晴らしい本なので、読んだことの無い方は是非読んでみてください。日本語と英語版がエレメンタリーライブラリーにあり、本屋さんでも見つけることができます。改めてKISTの2013-2014年度によこそ！今年も引き

続き、お互いの幸せのバケツを満たしあい、一緒に暖かく前向きな一年にしていきたいと思います。

Kevin Yoshihara
Elementary School Principal



PYPニュース

2013-2014年度が始まり、生徒たちが新しいクラスと学校生活に慣れると同時に、学校中が胸が弾むような雰囲気でもち溢れています。教員たちも同様に、今年度がどのように素晴らしい一年になるだろうと楽しみながら気持ちでいっぱいです。

去年はリテラシー（読み書き）向上にむけて、「リーダーズワークショップ」を新たに学校に導入し、素晴らしい結果を生み出すことが出来ました。今年度も同様に、スタッフトレーニングの一環として「ライティングワークショップ」を開催し、Ms Laura Bensonを学校にゲストとして迎えリテラシープログラムの内容を更に充実させたいと思っています。

リテラシーと同様に重要な取り組みとして、新たに算数カリキュラムを開始しました。教員、生徒と保護者の方々が口をそろえ、新しい教科書（Key Stages）と補助教材のおかげで算数が学びやすく、楽しくなったと言っています。新しい教材を導入することで、算数を学習する際に使われる言葉がセカンダリースクールまで統一化されるため、生徒の算数・数学の学習が改善されます。この取り組みにより生徒の算数の力がどれだけ伸びるか楽しみです。

以上の二つの新たな取り組みと、探求を基本としたユニットを組み合わせることにより、現在の教育内容が改善され、KISTの教育の質が向上していくでしょう。生徒のみなさんが楽しく、有意義な学習経験を得ることが出来るよう取り組んでいきたいと思っています。新しいカリキュラムや今までのカリキュラムに関して質問がありましたら、エレメンタリーオフィスまでお問い合わせください。

Clay Bradley
PYP Coordinator



セカンダリースクールニュース

2013-2014年度も始まり二ヶ月目に入り、生徒も新しいスケジュールに慣れて落ち着いてきました。今年度より新しい教員を迎え、昨年度のEICクラスの教員数名もセカンダリーに移りました。学校の生徒グループと同じように教員グループも、様々な文化背景を持った教員で構成されています。(グループ内の国籍数を合わせると17にまでなります)(10ページ参照)。

夏に行われた教員オリエンテーションでは、生徒のマルチタスキング(複数の事を同時に行おうとする事)に関して話し合いました。特に私たちの多くはスマートフォンなどの便利な機能に慣れてきているため、重要なトピックとなります。私たちのディスカッションでは以下のことが話し合われました:

- ソーシャルメディアを使うには、学習にも不可欠となる、言語力、分析力が必要となる
- 学習の効果はマルチタスキングをしている際には集中している時と比べてとても少なくなる事を脳科学の研究者が証明している
- 生徒はマルチタスキングを行っている際には学習の理解が低下し、新しいコンテキストに活用する事が難しくなる

スタッフは[The New Marshmallow Test: Students Can't Resist Multitasking](#)というリサーチを参照し、クラス内で、良いマルチタスキングの仕方を促進し、悪いマルチタスクを無くすプランをたてました。Larry Rosen教授のこのエリアでの仕事はとても興味深いため、保護者の皆様も是非この記事を読んでみてください。全てのマルチタスクが悪いというわけではありませんが、生徒と大人も正しい選択をする必要があります。

G10-12で行われている、生徒一人につきラップトップを持ってきての学習を、今回のマルチタスクの件にとまな

い見直したところ、ソーシャルメディアの間違った使われ方が問題となり、学校にてより詳しく調べていかなくてはならなくなりました。学校外で友達や家族と連絡を取り合うためにソーシャルメディアを使用するには問題がありませんが、学校内では学習の妨げとなっています。加えて不適切な使い方をし、オンラインでのいじめなどは行わないように注意を促しています。これらの事をふまえ、学校では生徒のパソコンから、授業の妨げとなっているフェイスブックやツイッターなどのサイトへアクセスする事を禁止しています。これらのサイトに学習に明確な利点がある場合にはITオフィスと協力し、アクセスの禁止をしている事が学習の妨げにならないよう、その都度努力していきます。

生徒が学習に集中し、授業の妨げとなる可能性のあるソーシャルネットワークを使用する時間を減らすことを目的としています。生徒にはインターネット上にある膨大な量のリソースにアクセスするが求められてきていますが、集中して作業を行う方法を覚えるための指導も必要としています。

Moodleを使用し必要となるリソースを一箇所にまとめて、コースごとに必要となる情報を分けてありますが、このアクセス制限は生徒が間違ったマルチタスクを行わないようにするためのものです。

家庭での生徒の学習サポートの提案:

家庭での良い学習環境作りについてよく聞かれるので、下記方法を試してみてください:

- お子さんにパソコンやiPad、スマートフォンなどを使う際には目の届く場所で使わせ、何を行っているかを見られるようにし、生徒が宿題に集中している事を確認する
- ご飯の時間や、就寝しているベ



き時間帯など、家庭で誰も電子機器を使わない時間を決める

- 家族と一緒にいる際にはお手本となるよう、自身の電話などを使わないようにする。バランスをみつけるのはとても難しいことであり、保護者の指導が良いバランスをみつけるのにはとても重要になります

集会やアドバイザリーなどの時間をとおして学校はソーシャルメディアの危険性を説明してきましたが、保護者の皆様にもこの事についてお子さんとお話をしてください。生徒には一度投稿したものは、ほとんどの場合永遠に残るものであり、不適切な投稿や、反社会的なコメントは大学や就職の際にも影響を及ぼすことがあります。

前年までと同じように、学校コミュニティの皆様と共に生徒の学習と良い環境作りを努めてまいりたいと思っています。



Stephen Rothkopf
Secondary School
Principal



知覚運動プログラム

今年度から新たにPMP（知覚運動プログラム）がKISTで始まり、K1からG1の生徒達がプログラムに参加します。PMPは体育の発展につながる斬新な取り組みで、日々の授業中の学習態勢と関連づけながら、生徒たちの知覚・自己イメージを強化する事を目的としています。この授業はプログラムに基づいた内容となっていて、Mr Akiによりthe MPR("PMP laboratory"と称される)で実施されます。



PMPプログラムに関する説明は以下のリンクでご覧になれます。

<http://www.smartstarters.com.au>

Jay Leroy

PE Teacher/Athletics Director



PMPとは知覚運動プログラムを意味する

知覚運動プログラムは、見る、聞く、触る、前進する、知覚的判断をする事や、様々な用具(一般的なものから、特別にデザインされたものまで)を利用し、計算され一つの流れになっている運動(走る、ホップする、スキップする、バランスをとる、這いつくばる、登る、投げる、キャッチする、ボーリングをする、滑る)を生徒に楽しみながら経験させることを目的としています。

子供が効率よく行動する為には、運動技能、歩行運動能力や、目、手、足のコーディネーション能力が要され、そのうえ健康体である必要があります。典型的な問題である、注意散漫、ぼーっとする、落ち着きが無い、だらしない、おっちょこちょいなどの性質や、破壊的で乱暴な行動などは、「知覚的世界」をまだきちんと確立していない子供に見られる特徴です。このような生徒は学校生活に苛立ちを覚え、思い通りに理想的な学習を進めることができません。

子供たちに必要な知覚力は以下のように分類できます。

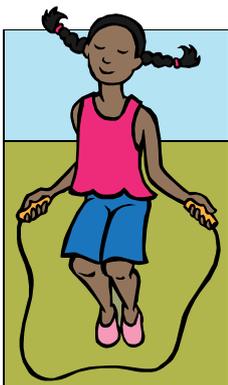
- 自分の体への意識(身体の意識、ボディコントロールと左右の体の違いの意識)。授業中に体が逆になったり、傾いたりしている生徒に必要な意識。
- 空間に対する意識。字を思うように書けない、時間を無駄にする、不適切な行動を起こしてしまうなどの問

題を対処する際に必要な意識。

- 時間(体のリズム)に対する意識。リズムよく暗記をし、効率よくふさわしい行動をするに為に必要な意識。

知覚運動プログラムは「治すより、防ぐ」ことを目的としていて、生徒の授業活動の妨げになる問題を突き止め、対策をとることを目的としています。問題に対する解決策を提示し、正しく物事に取り組む姿勢を指導することで、生徒達は効率よく学習に取り組めるようになり、社会技能を身につけ、さらに自信を持つことが出来るようになります。

知覚運動プログラムの目的は、子供たちが一貫した流れになっている運動を通して、記憶力トレーニングを経験し知覚、運動力を高めることです。子供たちが自信を持ち、問題解決ができるようになり、語学力向上や基本的な体育のスキルを発達させることで、重要なゲームやアクティビティーに出場した際に全力を発揮することが出来るようになります。自尊心を高め、自分は社会の一員として何か世の中の為に貢献できる存在である、という意識を持つことが出来るようになるでしょう。



図書室ニュース

The Library is an extension of every classroom.

新しいスクールイヤーが始まり、今年度からKISTライブラリーをクラスの延長施設として利用するよう薦めていきたいと思ひます。この取り組みは、ライブラリービジョンであり、学校の教育方針である“Learning for Life”の基盤となっている **developing inquirers(探求を発展する人)**、**critical-thinkers(論理的な思考の持ち主)**、**independent and lifelong learners(自立した、生涯学習者)**を映し出しています。

また、新しい教材がKISTライブラリーに追加されました。新たに購読契約をした教材は、Student Edition、Opposing Viewpoints、Science in Context、Kids InfoBits、とBrainPOPです。また、Britannica Online School Edition、Destiny WebPath Express、Questia SchoolとTurnitinの購読契約の更新も行いました。以上の教材を導入した目的は、私たちのライブラリーオンラインサービスを充実させ、IBワールドスクールで求められている教育条件に沿ったサポートを提供できるようにする事です。Library Media Center (LMC)とElementary Library Moodleページにて教材を閲覧することができます。生徒たちへの教材に関する説明は、Ms Leslieと Mr Andiのライブーオリエンテーションにて行なわれます。



更にPYPの概念、MYPユニット計画とDPリサーチ学習のカリキュラムの必要性に応じ、LMCとElementary Libraryの本のコレクションを増やしました。新しい本を閲覧したり、教材の総合リストをDestiny Library Systemにて確認したい方はライブラリーまでお越しください。

ライブラリーチーム



Ms Leslie Hynesは新しいエレメンタリースクール・ライブラリアンです。生徒が読書を好きになり、リサーチスキルを身につけることが出来るようサポートします。

Ms Satoko YoshimotoはLMCのライブラリアンです。LMCの日々の運営を行い、オンラインリサーチツールに対するサポートや、図書館にある教材に関する説明を生徒に提供するのが役割です。

Mr Andi Licuananはスタッフの為のライブラリアンです。情報リテラシーをスタッフに教え、教員と共に生徒の学習、リサーチスキルをサポートします。

ライブラリー利用可能時間と貸し出し方法

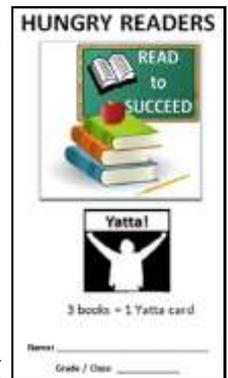
Library Media Center (LMC)	8:15 a.m. - 4:30 p.m.
Elementary School Library	8:15 a.m. - 4:30 p.m.

- * エレメンタリーの生徒が学校開始前、終了後に図書館の利用の際は保護者の同伴が必要です。
- ** 火曜日は2:40に図書館が閉まります。

エレメンタリースクールの生徒が本を借りる際は、本を保護する為にキャンパスライブラリーバックを持参する必要があります。各クラス、週に一回ライブラリーを訪問し、一回に10冊まで本の貸し出しが可能です(ローワーエレメンタリーの生徒の場合は2冊まで)。また担任の許可を得てライブラリーパスをもって来た際に限り、スナックタイムでも図書館を利用することで出来ます。

全学校によるライブラリーアクティビティーについて

一年間を通して、様々な楽しいアクティビティーを企画しています。全校生のみなさんにHungry Readers(読書プログラム)に参加していただきたいと思ひます。参加者はエレメンタリーライブラリー/LMCの本を読み、感想文を提出します。ライブラリーで入手可能なHungry Readersブックレットを完成させた生徒には、Yatta! Cardが一枚渡され、くじ引きに参加することが出来ます。10月10日までにHungry Readersブックレットを完成させ、ライブラリアンに提出してください。



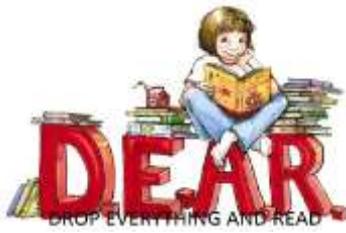
Yatta! Cardsに関する情報

- Q1. Yatta! Cardsとは何ですか？
- A1. Yatta! Cardsは、IB学習者像とライブラリースキル向上の為の報酬システムです。
- Q2. Yatta! Cardsはどこで手に入れることができますか？
- A2. 生徒が報酬の対象条件を満たした場合、先生またライブラリアンからカードをもらうことで出来ます。例えば、生徒が積極的に授業中に意見を述べ、クラスディスカッションに参加したり、Hungry Readersに出場し、アセスメントや宿題、課題を振り返りながらリサーチするスキルが有る場合などが報酬の対象になります。
- Q3. 実施時間はいつですか？
- A3. 8月26日から10月9日までです。くじ引きに参加したい生徒は、10月10日までにYatta! Cardsをライブラリーで提出しなければいけません。



前ページの続き

Drop everything and read



11月5日にエレメンタリースクールの生徒たちはBook Character Dress-Up Parade (本のキャラクター変装パレード)に参加し、毎年恒例の11月のイベント Drop Everything and

Read (DEAR: 作業を全て中止し、読書を楽しもう)のプログラムを開始したいと思います。

開始日程

PTA Library Committee Meeting (LMC)	Tuesday, September 17, 1:00 p.m.
Hungry Readers and Yatta! Card Raffle	Thursday, October 10
Elementary Book Character Dress-Up Parade	Tuesday, November 5
Drop Everything and Read	November 6, 13, 20, 27

PTA ライブラリー委員会

本を保護することによって生徒が長期間にわたり読書を楽しめるよう、本にカバーをしてくださるボランティアの方を募集しています。ボランティアを検討している方は、PTA ライブラリー委員会に参加するか、セカンダリー校舎二階にあるLMCのMs Yoshimotoまでご相談ください。

アドミニスタッフをはじめ、教員、保護者の方々のKISTライブラリーへのサポートに感謝しています。今後も生徒が読書を楽しんで学習できるようにサポートしていきたいと思いますので、宜しくお願い致します。

The Library Team

Mr Andi, Ms Satoko and Ms Leslie
library@kist.ed.jp



PTAベルマーク委員より

皆様のご協力により、前年度一年間で46,955ポイント(1ポイント1円)が集まりました。



このポイントは学校の備品等購入のために使われます。

今年度もKISTのため、引き続きベルマーク集めをお願いします！

KISTコミュニティの様々な国籍

インターナショナルスクールとして、学校全体と各学年の国籍のバランスを保つよう努めています。今年度は48の異なる国籍の生徒が在籍しており、17の様々な国籍のスタッフが働いています。以下のワードルで自分の国籍を見つけられましたか？



生徒の国籍数



スタッフの国籍数

KISTival 2013

毎年恒例のスクールフェスティバル、KISTivalが今年度は10月26日(10時~3時)に開催されます。学校運営資金を収集することが出来る最大イベントとなっているため、KISTコミュニティ全員の方に準備や各学年のブース運営のご協力をお願いしています。KISTivalは一般公開イベントなので是非、お友達をお誘いのうえ参加なさってください。詳細は後日お知らせいたします。今年のコスチュームはもう決まりましたか？



Staff 10!

今月のStaff 10!では、今年度より Director of EducationとMYP数学の教員としてKISTIに戻ってきた**Jeffrey Jones**を紹介させていただきたいと思います。



Mr Jones

● 出身地について面白いことを教えてください。

多くの日本にいる方々は、カナダの冬はとても寒いという印象を持たれているように思います。カナダの都市部の多くでは実際にその通りなのですが、私の出身地であるバンクーバーの冬は比較的穏やかであり、東京の気温とほぼ変わりはありません。

● 世界で一番好きな場所はどこですか？

世界中の様々な国に行くことができたこと、そして私が世界で最も美しい場所の一つ(住むのに世界で最も高い場所の一つでもあります！)と感じている、カナダ・ブリティッシュコロンビアのウイスラーに住む事ができたことはとても幸運な事だと感じています。

● チャンスがあったら会ってみたい人は誰ですか？その理由を教えてください？

これまでの人生の中で出会った方々と出会えた事に感謝しています。どんな出会いからも何かしら学ぶ事があります。これから誰に会いたいかという事に関して言えば、まだ会ったことがないのであれば、**あなた**にお会いしたいと思います。いつでも訪ねてきてください。

● 何か特別なスキルやタレントをお持ちですか？

‘特別’だと感じるものは特にありません。

● ご自身についてあまり知られていないことを教えてください。

私がスノーボードのインストラクターをしていた事をご存知なのは数名ではないでしょうか。

● あなたにとって一番の宝物は？

私の家族です。‘持ち物’というわけではないですが、私が何よりも大切に感じているものです。

● ご自分を言葉で表現すると？

私の生徒は私の事を、ポジティブで思いやりがあり、親切で、面倒見がよく、面白く(時々)、考える人、心を開く人であり、背が高い人だといってくれるので、その通りであると言っておきます。

● もう一度人生をやり直せるとしたら何か他のことをしたいですか？

この人生をベストに過ごす努力に忙しくてこの質問について考えられません、信念を持って生きる努力をしているので、(何か思い出せないことがあるはずですが)特に後悔している事はありません。

● 自分を高めるために今やっていることは？

全部、と言ってもよいのでしょうか？人生は与えられた時間の中でできる限り学び、それを活かして自身を成長させ、世界をより良い場所にする貢献をするための冒険だと考えています。

● ファンに一言お願いします。

ファンがいるのですか？私の人生にポジティブな影響を与えたガンディの言葉を共有したいと思います。“あなたが望む変化にあなた自身がなりなさい”。

オフィスアップデート

学費のお支払いについて

2013年度の学費 第2回目の支払期限は9月17日となっております。

請求書は一年分のお支払明細を1枚にまとめて年1回のみ発行しております。

すでに発行済みのお手持ちの請求書で金額をご確認下さい。

なお、紛失などの理由でお支払い詳細が分からない場合は、お電話又はメールにて経理課までお知らせ下さい。



保健便り

まだまだ暑い日が続いていますね。先日8月20日に先生方を対象に熱中症について注意喚起をしました。内容は熱中症の予防方法、症状、応急措置などです。



当校では気温を計測し35度以上の場合、湿度の値によっては状況によりグラウンドの使用を禁止とし、休み時間や昼食時、野外に出る前には必ず水分を摂取する事、体育やスポーツ活動時には20~30毎に水分、休息をとる事など注意を促しています。

暑さへの耐性は個人差がありますが、肥満傾向の人、体力の低い人などは熱中症になりやすいと言われています。お子様の健康管理(睡眠は十分か、バランスの良い食事は摂れているか、など)この暑い時期には、さらに注意しましょう。

Makiko Whittaker
School Nurse



カレッジガイダンスニュース

KISTキャリア&カレッジガイダンスオフィスは、保護者・生徒向け説明会、大学フェア、大学代表者による説明会、個人面談、スクールイベント、ワークショップ、アドバイザーークラス授業など幅広いイベントや活動を通じてKISTコミュニティにさまざまなサービスを提供しています。KISTの生徒(そして保護者の方)がKIST卒業後の高等教育進学やキャリアプランを立てる際に役立てていただけることを願っております。ここ数年は、アドバイザーの一環として9年生から12年生にキャリア&カレッジガイダンスの授業を行ってきましたが、今年はさらに7年生と8年生にもレッスンを行うことになりました。できるだけ早い段階から情報に触れていただいたほうが良いと考えるからです。12月の火曜日のアドバイザーークラスで7年生と8年生の生徒に会えるのを楽しみにしております。

Careers and college guidance team

今年、新たに、数学の教員Mr. Hiro Komaki (KIST Class of 2008)が、チームに加わります。Mr. Komakiは、英国バース大学で数学の学位BSc (Hons) Mathematical Science、ロンドン大学ゴールドスミス大学院で教育免許(PGCE)を取得し、この夏インターナショナルカレッジガイダンスの研修を受けました。

Personal statement workshop

—Wednesday after school 3:45-4:45

Mr. Robert Johnsonの12年生向け(2学期からは11年生も対象)特別ワークショップが9月4日から始まりました。毎週水曜日の3時45分から4時45分まで、生徒は、自分の志望理由書やカレッジエッセイのドラフトを202教室に持って行って、アドバイスやチェックを受けることができます。

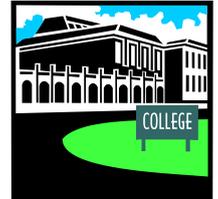
KIST "Class of 2013" destinations

- 2013年度卒業生35名のうち29名が12年生在学中に大学(4年制または3年制)に出願しました。
- うち26名が今年9月または10月から大学に進学
米国: 8 | カナダ: 4 | 英国: 3 | 欧州: 1 | 日本: 8 | シンガポール: 1 | 韓国: 1
- 6名は今年の秋以降に大学を受験
日本: 5 | オーストラリア: 1
- 2名がギャップイヤーを選択
- 1名は自国での兵役に就きます

進学先と合格大学リストは、本校舎1階カレッジガイダンスオフィス前の掲示をご覧ください。

College fairs

- **Friday, September 20, 1:00-4:00**
Kanto Plains Fair at St. Mary's (G11、G12生徒のみ)
- **Monday, September 23, 3:15-6:00**
CIS Fair & Workshop at St. Mary's (事前登録が必要)



- **Saturday, October 19, 1:00-6:00**
Education UK by British Council (一般公開)
- **Sunday, October 20, 1:00-6:00**
beo Fair at Shinjuku L-Tower (一般公開)
- **Friday/Saturday, November 8-9**
Canada Fair at Canadian Embassy (一般公開)

College visits at KIST

- **Monday, September 9, 3:40-4:30**
Savannah College of Arts and Design (SCAD), USA
- **Thursday, September 19, 3:40-4:30**
Laureate Hospitality Education, Switzerland
- **Wednesday, September 25, 3:40-4:30**
UC Riverside, USA
- **Tuesday, October 22, 1:40-4:00**
Pacific Lutheran University (PLU), USA

Mrs Keiko Okude
College Guidance Counselor



2013入学説明会

2014 - 2015年度向け

KISTでは2014 - 2015年度入学希望者を対象とした入学説明会を行います。

アドミニスタフおよび教師が直接皆さまからの様々な質問(入学手続き、カリキュラム、大学進学、その他学校生活全般について)に直接お答えいたします。

また、学校施設の見学もできます。

日時:

October 19, 2013 (Saturday)

セッションは2部制です:

- (1) English: 9:45 a.m. - 12:00 p.m.
- (2) Japanese: 1:15 p.m. - 3:30 p.m.

受付締切は:

October 18, 2013 (Friday)

要予約です!

www.kist.ed.jp

2013-2014年度の数学の変更点について

既にお聞きになられた方もいらっしゃると思いますが、KISTは五年以内に達成する目標をたてました。DPの平均点を36点まで上げ、生徒のDP数学の成績を良くし、DP数学HLと数学SLで学ぶ生徒の数を増やすというものです。これらの目標を達成するために学校全体の数学プログラムに変更が加えられました。

数学カリキュラムの変更点

生徒がIBディプロマプログラムを始めるためのより良い準備ができるよう、KISTではK3からG8の数学カリキュラムをイギリスのKey Stageと合わせ、G9とG10の数学はEdExcelのInternational GCSEのカリキュラムと合わせました。これらのカリキュラム内容は今まで通りIB PYPとMYPの枠組みに沿って提供されます。より詳しい情報は下記ウェブサイトをご覧ください。

Key stageカリキュラム:

<https://www.gov.uk/national-curriculum>

EdExcel IGCSE:

<http://www.edexcel.com/Subjects/Mathematics/Pages/Default.aspx>

数学学力テスト

数学の学力テストは一年に3回、G4-10の生徒を対象に行われます。今年度のテスト日程は、8月20日、1月17日、5月29日となっています。学力テストから得たデータは、クラスと学年ごとのパフォーマンスをよりよく理解するため、サマースクールやセカンダリーで行われているレベルごとのクラス分けの効果ををはかるため、セカンダリーの数学のクラス分けや、進学基準、サマースクールの参加必須条件などをに用いられます。

テストの結果は各テストセッション後に保護者に送られます。これらのテストにはまだ学校で学習していない内容が含まれているため理解していない場合があり、一年を通して結果がよくなることが期待されています。

セカンダリースクールのクラス分け

学力テストはセカンダリースクール生徒の数学のクラス分けにも使われ、テストの結果により二つのコース、Standard Mathematics、もしくは

Extended Mathematicsのうち一つに入ることとなります。Standard Mathematicsに入った生徒はその後、週5ピリオドのクラス、もしくは週7ピリオドのクラスに分けられます。二つのStandard Mathematicsでは同じ内容を学びますが、週7ピリオドのクラスに入った生徒は、より多くの授業時間が与えられ、基礎的なコンセプトを復習し、新しい内容を理解してゆく事ができます。クラスの移動は、1月と6月の学力テスト後に検討されます。

8月に行われた学力テストでは、昨年度6月に行われた試験の結果と比べて非常に学力を伸ばした生徒が数多くいた事を報告したいと思います。この結果はサマープログラムや、夏の間各家庭でのサポートの結果をよく反映していると思います。これからも引き続き学力の向上に期待したいと思います。

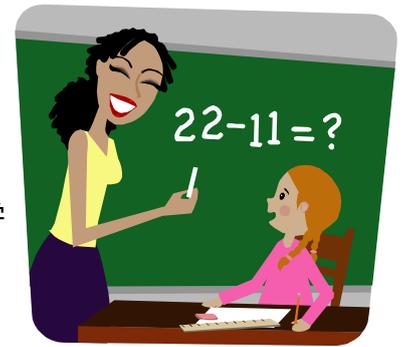
KIST生徒の数学能力向上のために、ご協力していただきありがとうございます。

数学カリキュラムの変更についてご質問等ございます場合は、お子さんの数学担当教員、もしくは私(下記Eメールアドレス参照)までご連絡くださるようお願いいたします。

Jeffrey Jones

Director of Education

jeffrey.jones@kist.ed.jp



PTAイベント委員より

PTA Events Committeeからは、皆様に様々なご協力をして頂き、またたくさんの方達に助けて頂き心より感謝しています。誠にありがとうございました。

昨年度の活動報告になりますが、学年度末の為皆様にはご報告が遅れましたが6月8日開催したEnglish Day At Kでは516,416円をNew Gym建設費の為のファンドレイズができました(PTAより49,000円ボランティアの生徒と先生方へTシャツとランチ代金の寄付を含めます)。初めての大きなファンドレイズを大成功へ導いたのは、教職員、オフィス、保護者、生徒などの大きなご協力のお蔭です。



また、5月10日と6月7日のBake SaleではKIST代表ユニフォームの為のファンドレイズとして合計124,357円を寄付させて頂きませう。このファンドレイズでは代表チームの生徒達と共にファンドレイズできたことが私達の喜びでもあります。ご購入頂いたりお手伝い頂いたり寄付して頂いた皆様に心より感謝しています。

皆様には様々なファンドレイズに賛同しご協力頂きありがとうございました。

グループ4プロジェクト

一つのトピック、4つのサイエンス、数え切れない可能性

グループ4プロジェクトは、ディプロマプログラムの必須項目であり、生徒に実験科学の環境的、倫理的、社会的側面を学ぶ機会を与えるものです。通常は自身が選び、学んでいる実験科学の分野(デザインテクノロジー、生物学、化学、物理のいずれか一つ、または二つ)について考えていけば良いのですが、グループ4プロジェクトでは、他の科学分野と一緒に他分野にまたがった考え方をする必要があります。グループ4プロジェクトのトピックは教員により選ばれますが、生徒は自分達でリサーチクエストを考え、実験をデザインし、実験を行います。昨年度のG11の生徒には“ラケットスポーツ”というトピックが与えられました。

最初は私たちも同じ反応しました。ラケットとサイエンスにどんな関係があるのでしょうか？ 少しずつグループでディスカッションを進めて考え、話し合っていくうちにたくさんのアイデアが出てきました。私のグループは色々な種類のスポーツドリンクがグリップの握る強さに与える影響をテストしました。他のグループはテニスボールの色が反応速度に与える影響や、温度が卓球の球の弾力性に与える影響などを調べました。同じトピックからそれぞれ独創性のある実験を行うことができました。

慣れていない人たちと同じグループになるのは、最初うまくいかない事もあります。最初のアイデアを出し合う段階では意見の食い違いなどがありましたが、プロジェクトの終わりには達成感を得る事ができます。実験の結果が予測と違っていても、クラスの授業だけでは学べないことを学べます。実験科学で重要なのは、我々の普通の生活のいたるところにもあるということです・・・ラケットスポーツの中にもサイエンスを見つける事ができます。

グループ4プロジェクトのアセスメントは“Interpersonal Skills(対人関係スキル)”という形をとります。モチベーション、忍耐力、チームワークなどは、振り返りや、個人の強みや苦手なところと一緒に評価されます。グループ4プロジェクトのトピックは意図的に生徒を混乱させるようなトピックが選ばれます。そしてグループは人間関係、性別、専攻している分野などできるかぎり対立が生まれるように組み合わせられます。生徒自身のアイデアのほとんどは実行に移せるものではなく、移せたとしても実験自体に問題がありました。しかしこれが目的なのです。プレッシャーがかかっている中でどれだけ協力して動けるかを評価するために、最初は個人の能力ではできないタスクが必要となります。

少しの指導の後、全グループは実験に取り掛かる事ができ、使えるデータを抽出する事ができました。データの採取と処理に多くの間違いがあり、データの解釈にはもっと多くの間違いがありましたが、プロジェクトの目的は果たさ



れました。生徒はとても良く協力し、全員期日までにプレゼンを行う準備ができていました。生徒が実際社会のサイエンスでは、革新的なものが出来上がるまでには、タスクに見合った時間、知識、リソースと協力していく過程が必要である事を学んだのは明らかでした。そしてこれらの要素が一つでも欠けている際には、Interpersonal Skillが何かを達成させるのに非常に重要であることも学びました。

Rio (G12A)

Andrew Young
MYP Coordinator



MYPニュース

2013-2014年度最初のMYPニュースでは国際バカロレア機構(IBO)MYPの原則と実践についてお伝えしたいと思います。

MYPとは11歳から16歳の生徒のための5年間のプログラムであり、KISTではG6からG10までの生徒を対象にしている事となります。MYPはカリキュラムの枠組みを提供し、その枠組みを通して教え方と学び方を定めますが、教える内容に関しては自由があり、学校が決める事ができます。MYPに高い難易度を持たせるためにMYPの最終学年にアセスメント目標(Assessment Objectives)が各教科にあります。IBOはG10に、正式なMYPの修了証明書につながるモデレーションという評価の適正審査も提供しています。他には、G10で実践されている評価を学校外で確認しアドバイスを得る評価のモニタリングという選択肢もあります。加えてIBOは5年ごとに学校訪問を行い、規定の基準と実践の確認をします。この基準と実践に沿っているという事を証明できなかった場合、IBのプログラム(一つ、もしくはそれ以上)を提供する権限を失う事になる可能性があります。

MYPの一番の目的は“国際的な視野”を育むことです。これは明確な定義を避ける掴みどころのないコンセプトですが、IBOは国際的な視野は、IB学習者像の特徴を発展させていく事で育まれると提案しています。その結果、KISTでは学習者像(探求する人、知識のある人、考える人、信念を持った人、思いやりのある人、コミュニケーションができる人、挑戦できる人、心を開く人、バランスのとれた人、振り返りのできる人)に生徒がより近づけるような学習ユニットを作っています。

全てのIBプログラムに共通している学習者像の他にMYPでは、包括的学習、多文化理解、コミュニケーションという3つの基本概念があります。包括的学習とは、全ての学習は繋がっており、実際社会の問題は他分野にまたがった知識を用いての解決策が必要であるという考え方です。コミュニケーションとは、生徒は複数の媒体と言語を用いて効果的にコミュニケーションができなければならないという考え方、そして多文化理解とは、自身の文化と他の人々の様々な文化を理解することが、アイデンティティ、寛容、尊敬を育むとい考えです。

もう一つのMYPの重要な要素として、AOIとよばれる相互作用のエリアというものがあります。AOIは教員が学習ユニットを計画する際の中心となるものであり、ユニット内で3つの基本概念の発展をサポートするものです。AOIは学習のコンテキストを作り、実際社会とのコネクションをつくり、多分野にまたがった学習ができる環境をつくりあげることでこれを可能にしています。更に、生涯学習という点にも重きを置いています。学習への姿勢(ATL)、共同体と奉仕(コミュニティーサービス、C&S)、健康と社会教育、多様な環境、人間の創造性の5つがAOIとなっています。更にその中の一つであるATLは7つ

の重要なスキルに分かれ、基本概念である、コミュニケーションの発展を促します。これらのスキルとは:自己管理、コミュニケーション、連携(コラボレーション)、情報処理能力、振り返り、熟考、活用の7つです。全てのMYP学習ユニットは7つのスキルのうち1つ以上のスキルを発達させる目的を持たなければなりません。残りの4つのAOIは、基本概念である包括的学習に強く繋がりを持ち、多文化理解にも少しの繋がりを持っています。教員はコンテキストとなるAOIを1つ選び、ユニット計画の内容を生徒が探求学習をできるようにします。ユニットの全ての段階でATL、選ばれたAOI、知識、スキル、態度、課題が一貫するようにIBOはユニット計画のテンプレートを教員に提供しています。

アセスメント(課題、評価)は、どのカリキュラムでも重要ですが、MYPでは教科概要とアセスメント成果によって明確に指定されており、IBOはMYP最終学年の全教科に評価基準を設けています。従って学校は、最終学年までにIBによって設けられた基準の最高レベルに生徒が到達できるようにユニットが組まれている事を確認しなければなりません。この基準の難易度を下げてシンプルにしたものを下の学年では使います。IBOのディプロマプログラムや、多くの国が指定したカリキュラム、ケンブリッジIGCSEなどの国際的なカリキュラムとは異なり、MYPでの評価は質的なものとなっています。質的評価とは、教員が課題をデザインし、作り上げ、実際に行い、評価をするという事です。IBOの指定した評価基準は、教員が生徒の達成度(成績)を定める際の基準となるデスクリプタ(記述文、説明文)という形をとっています。

各教員には責任と自由があるため、授業や評価の質のコントロールを考えるのは学校にとって大変重要なことです。KISTではG6-9ではStandardizationという学内での評価の適正審査を教員同士で行います。G10ではIBの行う、モデレーションという評価の適正審査を行い、IBに認められた成績を得る事ができ、G10卒業証書にあたるMYP修了証明書を受け取ることができます。モデレーションを行う以外の適正審査の方法として学外で行われる評価のモニタリングがあり、モデレーションほどコストをかけずに評価の適正についてフィードバックを得る事ができます。KISTでのG10のアセスメントは、学内での評価の適正審査を終えたあと、IBOによる評価のモニタリングを一年に一度受けています。

MYPのアセスメントや生徒ポートフォリオについてご興味がありましたら、20日に行われるMYP Information Session(MYP保護者説明会)にご参加くださるようお願いいたします。

Andrew Young
MYP Coordinator

